Gスクリーン

取付説明書 － 横格子タイプ －

●このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
⚠警 告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
⚠注 意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号	
🔑ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補 足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

＜施工の前に＞

⚠注 意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
●梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
●本製品は、1階設置用です。2階以上には設置しないでください。
●母屋の屋根から雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により、製品が破損するおそれがあります。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
●施工手順は、下記の「取付説明書区分表」で使用する取付説明書を確認してください。

取付説明書区分表

施工区分	使用する取付説明書	取説コード
柱、フレームの取付け	・Gフレーム	E248
デザイン格子の取付け		
パーゴラの取付け		
フレーム・柱デザインカバーの取付け		
ファンクション柱の取付け	・Gフレーム　ファンクション柱	A451
サイディングの取付け	・Gスクリーン　サイディング壁	C365
角格子スクリーンの取付け	・Gスクリーン　角格子	C366
横格子スクリーンの取付け	・Gスクリーン　横格子	C367
腰壁用柱の取付け		
縦格子スクリーンの取付け	・Gスクリーン　縦格子	C368
腰壁用柱の取付け		
ルーフの取付け	・Gルーフ	E249
キャノピーの取付け	・Gフレーム　キャノピー	E250

C367_200705A

＜施工上のご注意＞

注 意

●取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
●ボルト, ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
●アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
●製品の改造は絶対にしないでください。
●施工終了後は、ボルト, ネジなどにゆるみがないか確認してください。
●施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

1. 施工の前の重要確認事項　※施工時には下記の事項を厳守してください。

1-1 施工例

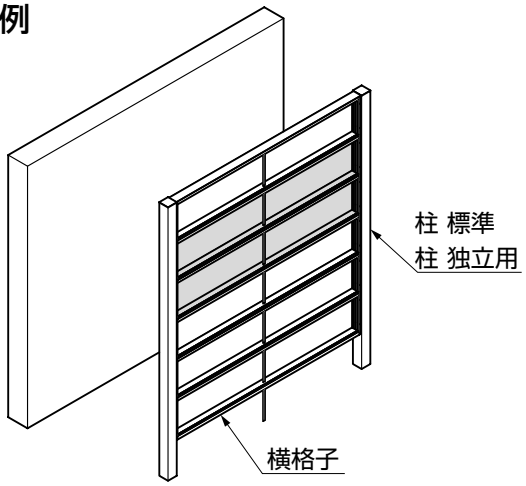


図1-1　独立施工1スパンのみ

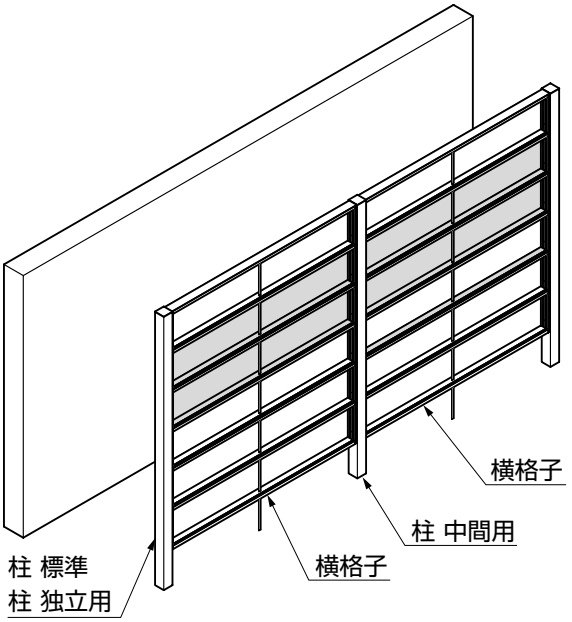


図1-2　独立施工複数スパン

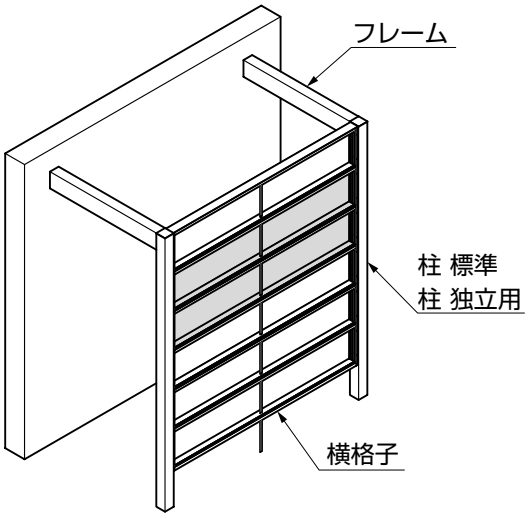


図1-3　躯体付け施工

注 意

●柱全てでフレームによる躯体への接続をしてください。柱が破損するおそれがあります。

補 足

●独立施工は各標準柱または独立柱、中間柱を使用して独立施工が可能です。(図1-1、図1-2参照)
●躯体付け施工は各端部柱または中間柱へフレームを建物へ取付けることで施工が可能です。(図1-3参照)

C367_200705A

1-2 パネル枚数と施工制限について

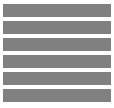
表1-1　H24柱（フレーム付き仕様/フレームレス仕様共通）

	パネル枚数	6枚	5枚	4枚	3枚	2枚	1枚
W15サイズ 柱ピッチ 1500	パネル段数	6段	5段	4段	3段	2段	1段
	独立施工（1スパンのみ）	○	○	○	○	○	○
	独立施工（複数スパン）	○	○	○	○	○	○
	躯体付け施工	○	○	○	○	○	○
W20サイズ 柱ピッチ 2000	パネル枚数	6枚	5枚	4枚	3枚	2枚	1枚
	パネル段数	6段	5段	4段	3段	2段	1段
	独立施工（1スパンのみ）	○	○	○	○	○	○
	独立施工（複数スパン）	×	×	○※1	○	○	○
	躯体付け施工	○	○	○	○	○	○

ポイント

●※1は横格子最上段にパネルを取付けない場合に可能な組合わせです。×は取付け不可を示します。
●H29柱への取付けの場合は取付け高さをH2450以下としてください。

表1-2　H24ファンクション柱

	パネル枚数	6枚	5枚	4枚	3枚	2枚	1枚
W15サイズ 柱ピッチ 1500	パネル段数	6段	5段	4段	3段	2段	1段
	フレームレス仕様	×	○※2	○	○	○	○
	フレーム付き仕様	×	○※2	○※2	○	○	○
W20サイズ 柱ピッチ 2000	パネル枚数	6枚	5枚	4枚	3枚	2枚	1枚
	パネル段数	 6段	5段	4段	3段	2段	1段
	フレームレス仕様	×	×	×	○※2	○	○
	フレーム付き仕様	×	×	×	○※2	○	○

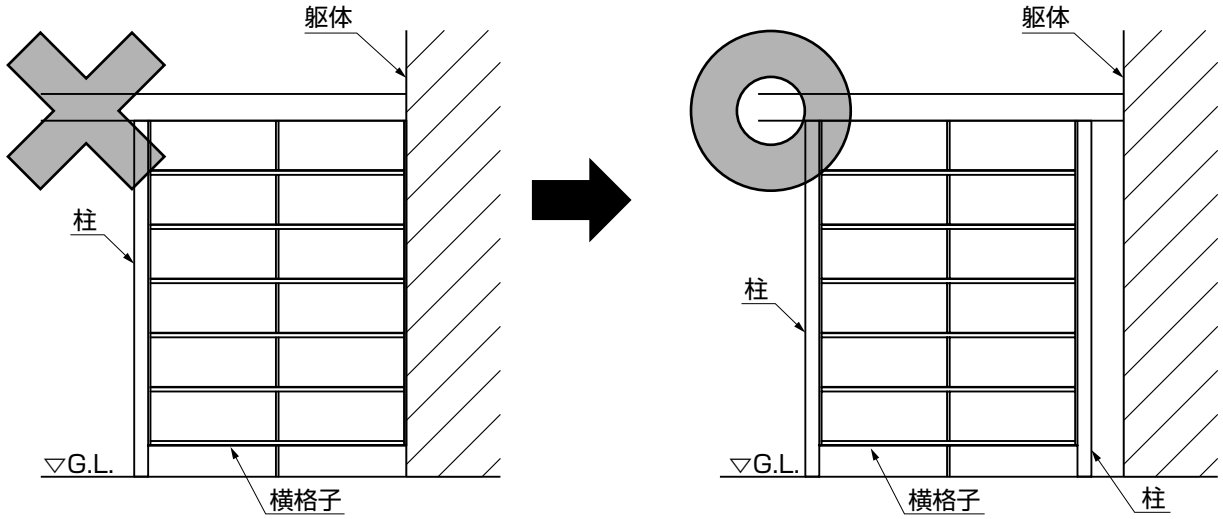
ポイント

●※2は横格子最上段にパネルを取付けない場合に可能な組合わせです。×は取付け不可を示します。

1.（つづき）

1-3 横格子の施工について

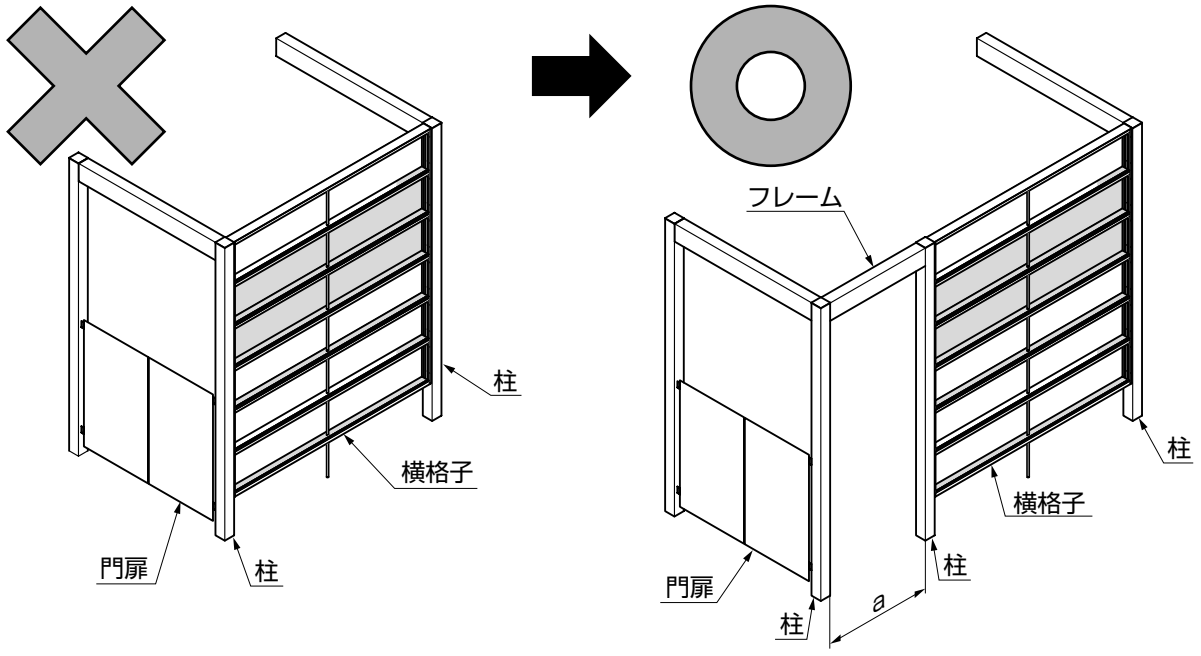
（1）住宅壁際への設置について



ポイント

●躯体（住宅壁）への突当て施工はできません。住宅壁側に柱を用いて縁をきる場合は施工できます。

（2）門扉への90°設置について

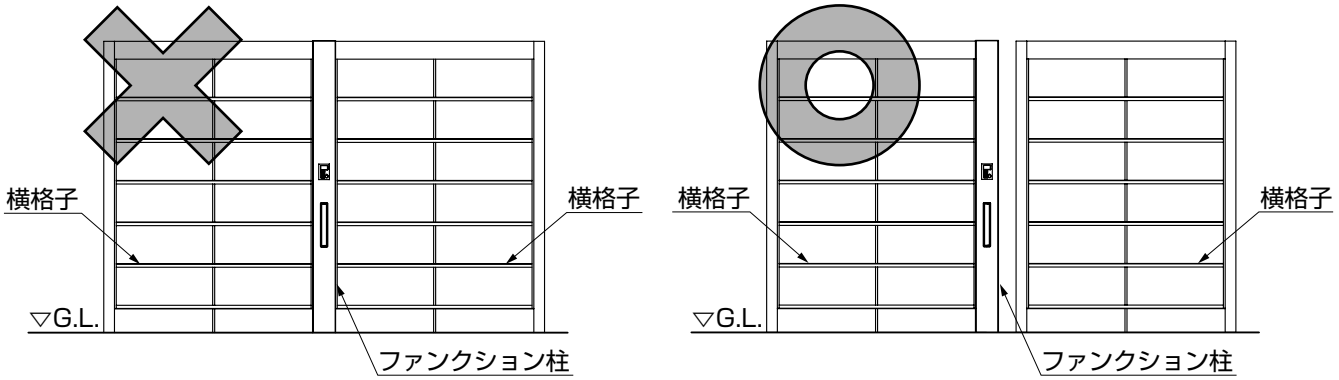


ポイント

●調整金具付き柱とのL型連結は施工できません。柱で縁を切って施工する場合はできます。
柱間の距離a寸法は
・調整金具を避ける場合は40mm以上にしてください。
・ファンクション柱のポストを避ける場合は500mm程度にしてください。

C367_200705A

（3）ファンクション柱へ横格子の設置について

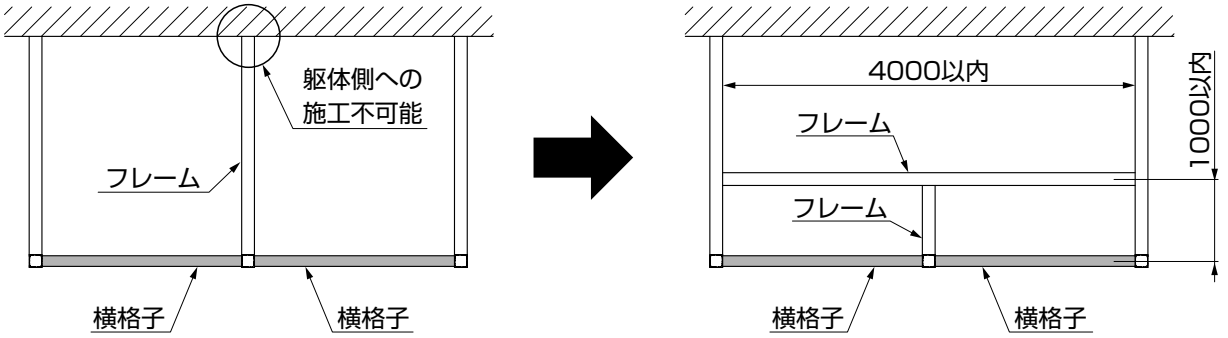


ポイント

●ファンクション柱両側・前面・裏面への取付はできません。

1-4 フレームの置換え施工

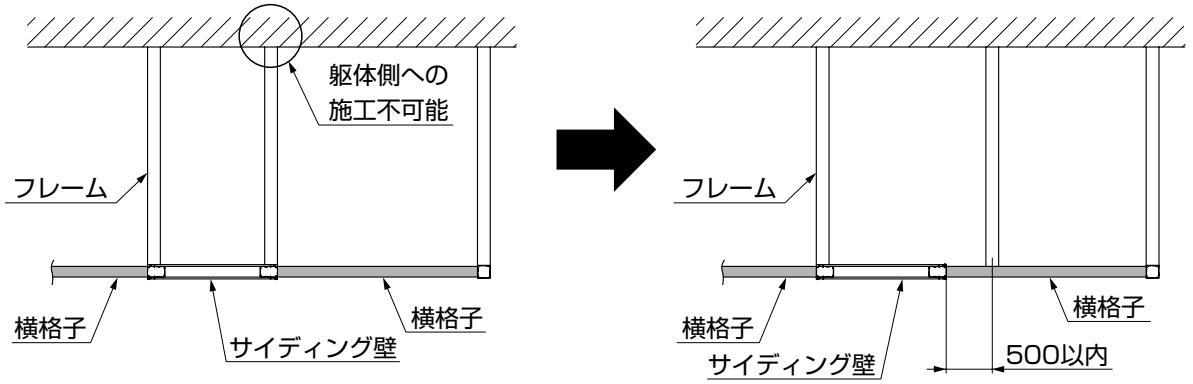
（1）躯体に障害物がある場合



ポイント

●躯体に障害物があり、本来必要な中間部のフレームを躯体側に施工できない場合は、フレームと中間柱の組合せで置換えが可能です。

（2）サイディング壁仕様で躯体に障害物がある場合　※フレーム付き仕様の場合

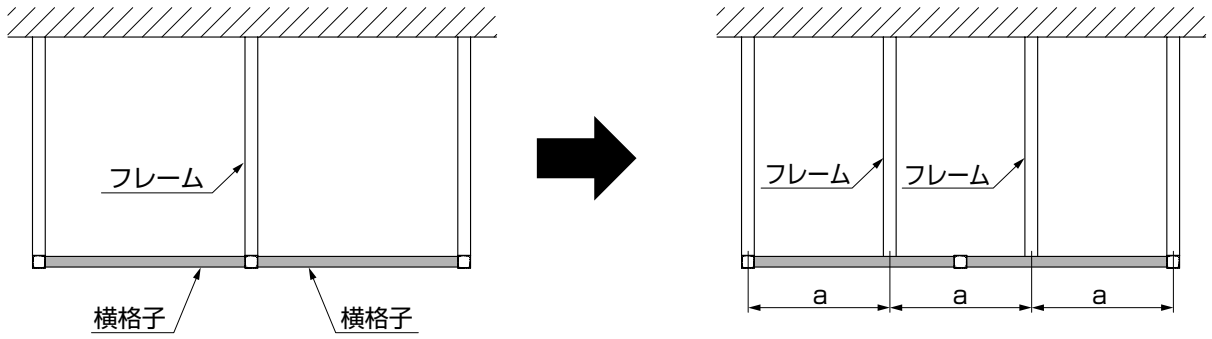


ポイント

●躯体に障害物があり、本来必要な中間部のフレームを躯体側に施工できない場合は、サイディング壁からのフレームの接続位置を500mm以内の範囲で移動が可能です。

1.（つづき）

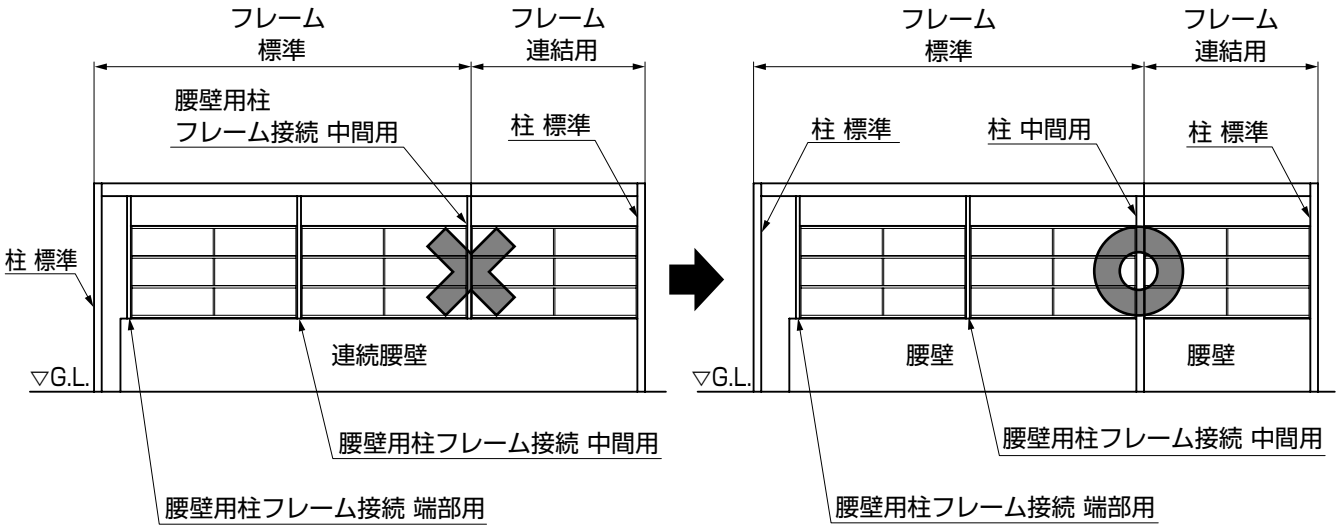
（3）フレーム接続位置の移動　※フレーム付き仕様の場合



ポイント

●躯体付け施工の必要本数以上のフレーム接続が可能な場合、等間隔に配置することでフレーム接続位置の移動が可能です。

1-5 腰壁仕様の施工について

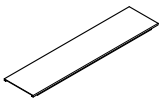
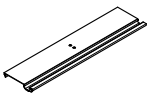
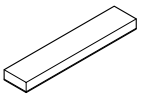


ポイント

●スクリーン腰壁仕様とフレームを組合わせて施工する場合は、フレームの施工制限に沿った柱の設置（地中埋込み）が必要です。
●腰壁用柱は、フレームを支える柱としては使用できません。
●Gフレームの柱（標準、中間用、独立用）は、スクリーン腰壁仕様の端部用または、中間用の柱として使用できます。

2. 梱包明細表

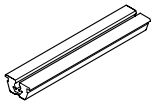
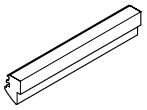
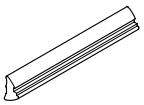
【1】横格子本体セット

名　　称	略　　図	員　数		
		W15 6段	W20 6段	W20 腰壁
横格子　共通用		2	2	−
横格子　下段用		1	1	−
横格子　腰壁用		−	−	1
格子カバー上用		1	1	−
格子カバー下用		1	1	−
縦連結材　最下部用		1	1	−
目地塞ぎカバー縦用		12	12	6
格子カバー		2	2	−
横格子用　腰壁縦部材		−	−	2
クッション材		4	4	−
【1-1】φ4×19 ナベピアスネジ		36	36	16
【1-2】φ4×15ナベタッピンネジ2種 G=5		6	6	−
【1-3】φ4×16サラピアスネジ D=6		−	−	2
取付説明書 Gスクリーン −横格子タイプ−〈C367〉	−	1	1	1
取扱説明書 Gスクリーン〈UC019〉	−	1	1	1

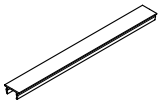
【2】縦部材セット

名　　称	略　　図	員数
横格子用　縦部材		2
【2-1】φ4×19サラピアスネジ		4

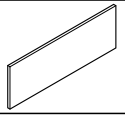
【3】取付け枠セット（マットパネル有）

名　　称	略　　図	員数
縦用グレチャン		2
先付けビート材		2
後付けビート材		2

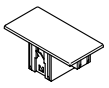
【4】取付け枠セット（マットパネル無）

名　　称	略　　図	員数
目地塞ぎカバー		2
目地塞ぎカバー縦用		2

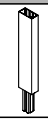
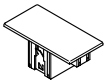
【5】パネルセット

名　　称	略　　図	員数
横格子用パネル		1

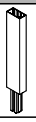
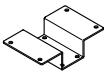
【6】腰壁用柱　独立端部用セット

名　　称	略　　図	員数
腰壁用柱　独立端部用		1
腰壁用柱キャップ		1
孔隠しシール		2

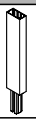
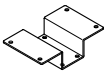
【7】腰壁用柱　独立中間用セット

名　　称	略　　図	員数
腰壁用柱　独立中間用		1
腰壁用柱キャップ		1
孔隠しシール		2

【8】腰壁用柱　フレーム接続端部用セット

名　　称	略　　図	員数
腰壁用柱　フレーム接続端部用		1
腰壁用柱取付金具		1
孔隠しシール		2
【8-1】φ5×19ナベピアスネジ		8

【9】腰壁用柱　フレーム接続中間用セット

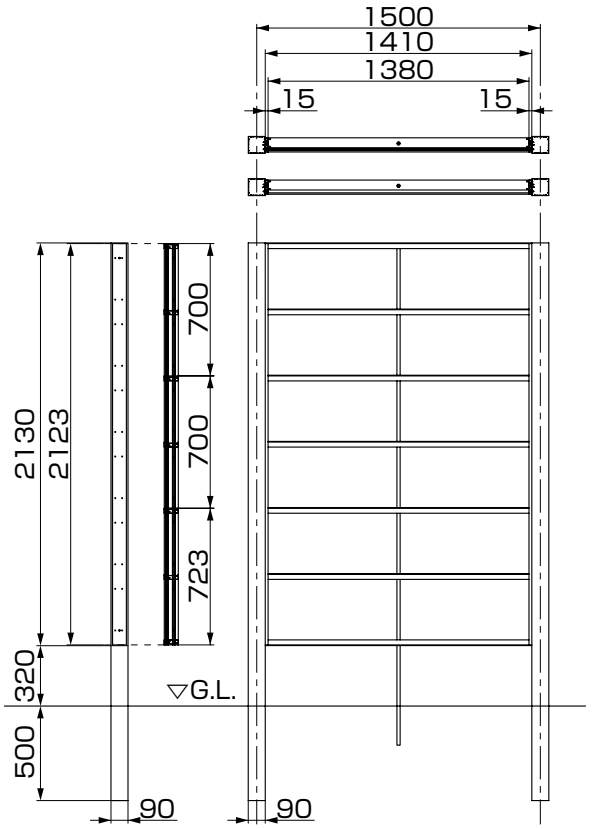
名　　称	略　　図	員数
腰壁用柱　フレーム接続中間用		1
腰壁用柱取付金具		1
孔隠しシール		2
【9-1】φ5×19ナベピアスネジ		8

C367_200705A

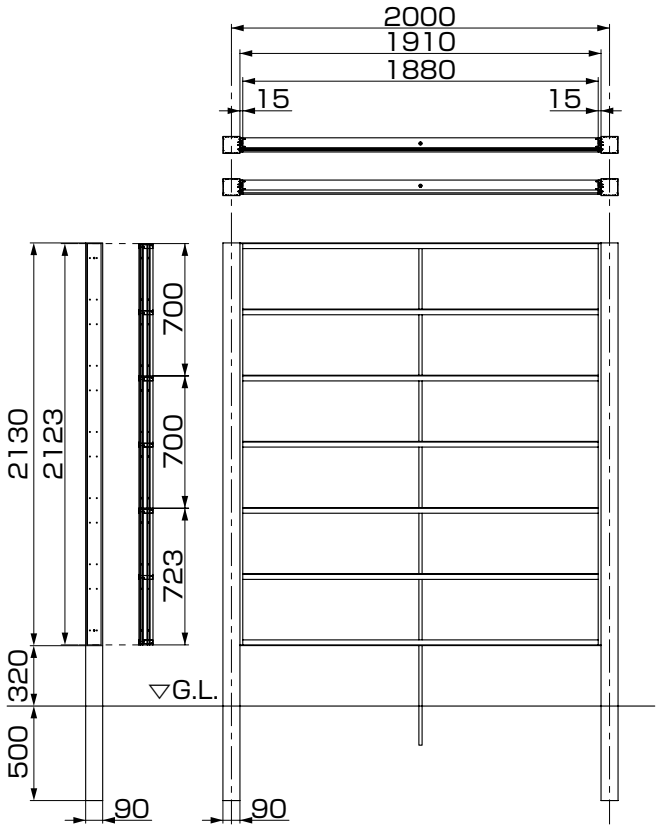
3. 基本寸法と各部名称

3-1 基本寸法

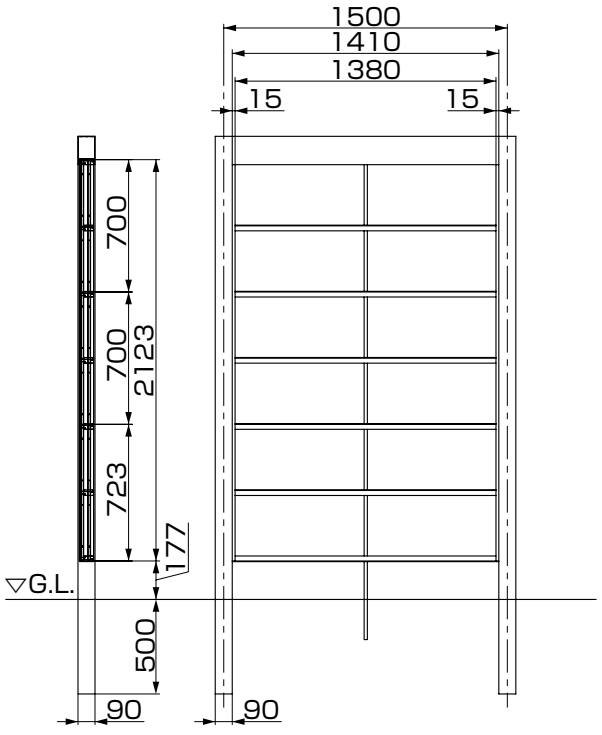
（1）フレームレス仕様 W15



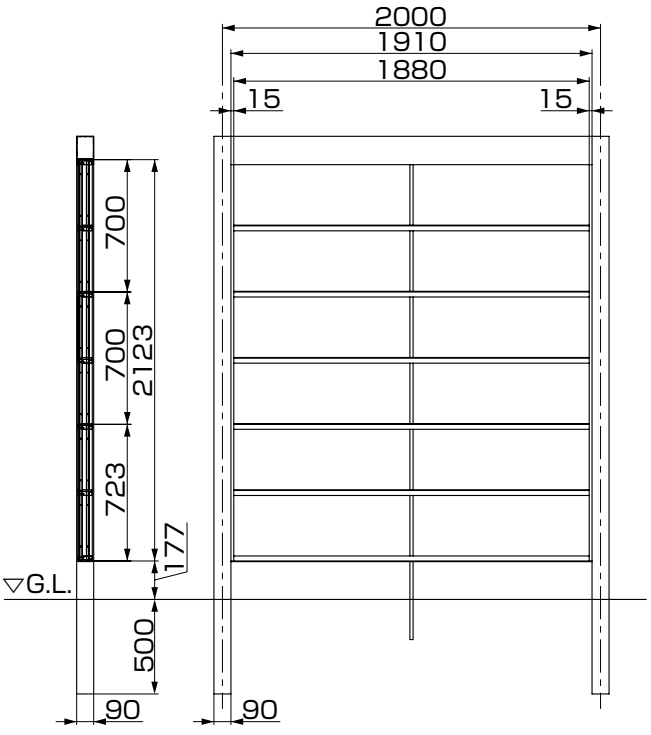
（2）フレームレス仕様 W20



（3）フレーム付き仕様 W15



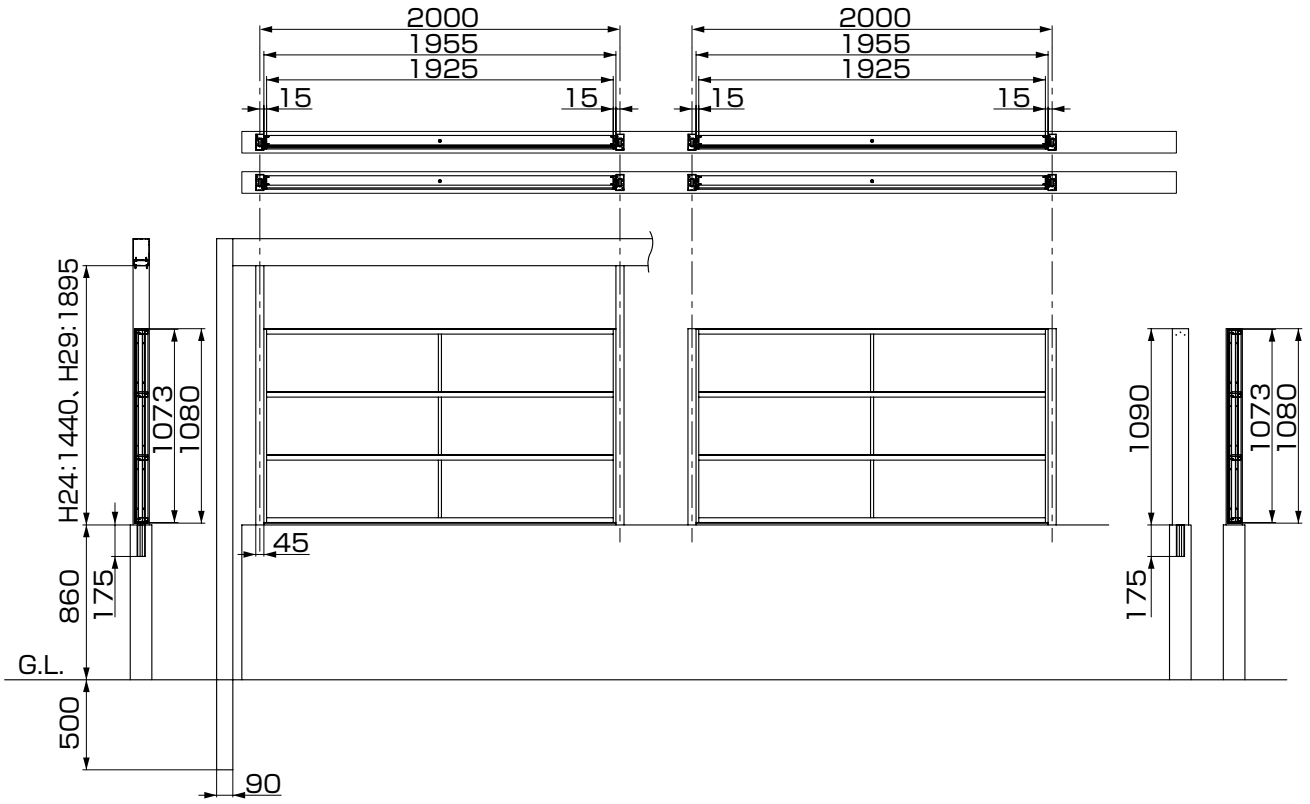
（4）フレーム付き仕様 W20



C367_200705A

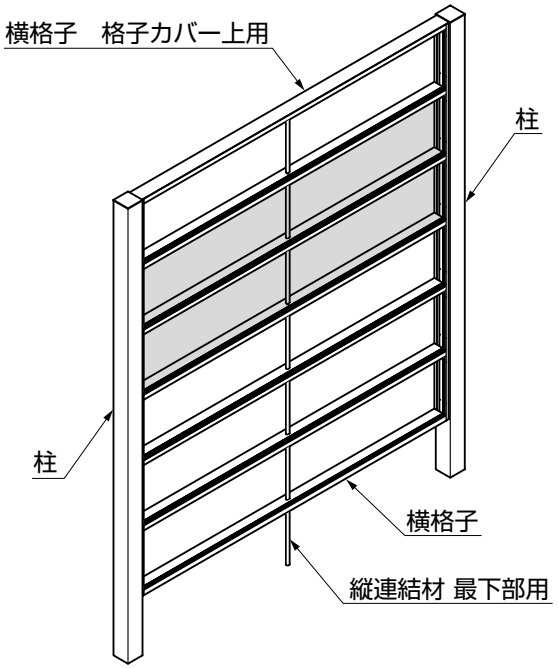
3.（つづき）

（5）腰壁施工

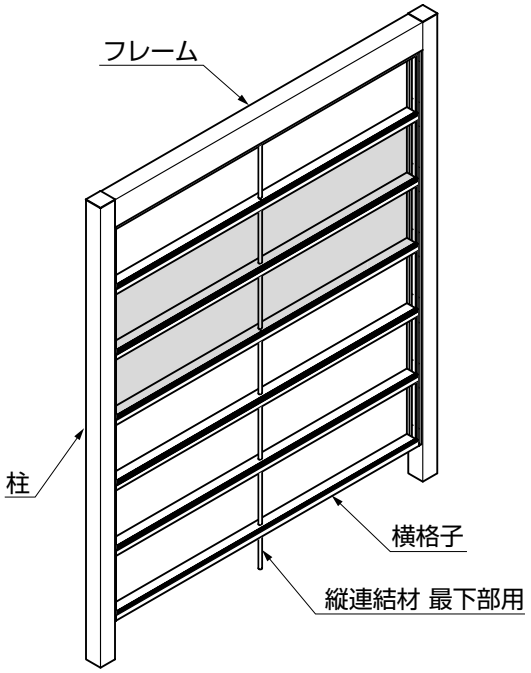

2000
1955
1925
15
15
2000
1955
1925
15
15
H24:1440、H29:1895
1073
1080
860
175
G.L.
500
45
90
1090
175
1073
1080

3-2 各部名称

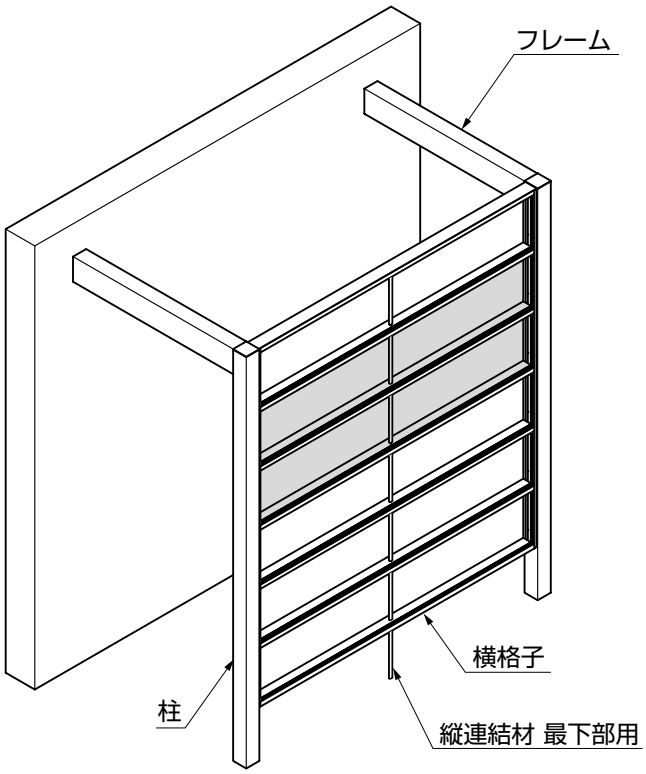
（1）独立施工フレームレス仕様



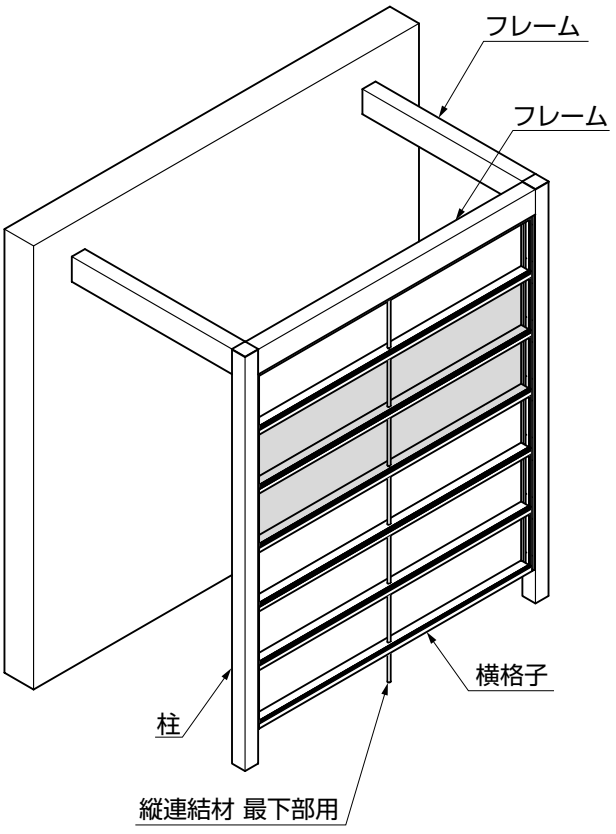
（2）独立施工フレーム付き仕様



（3）躯体付け施工フレームレス仕様



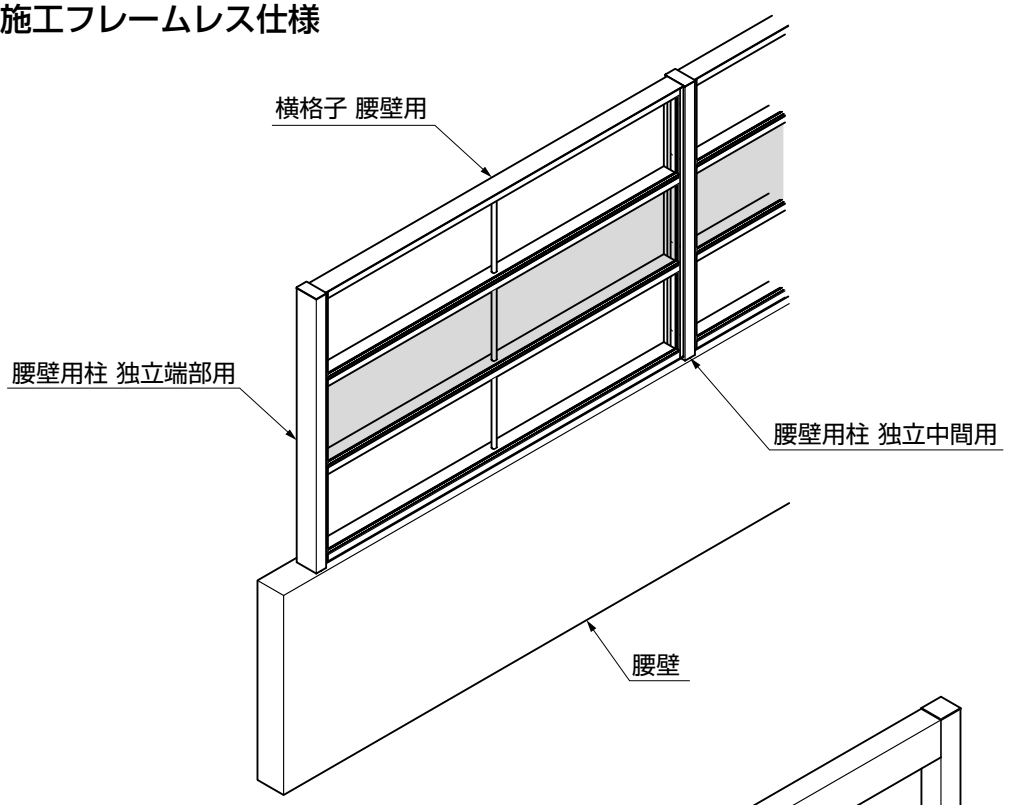
（4）躯体付け施工フレーム付き仕様



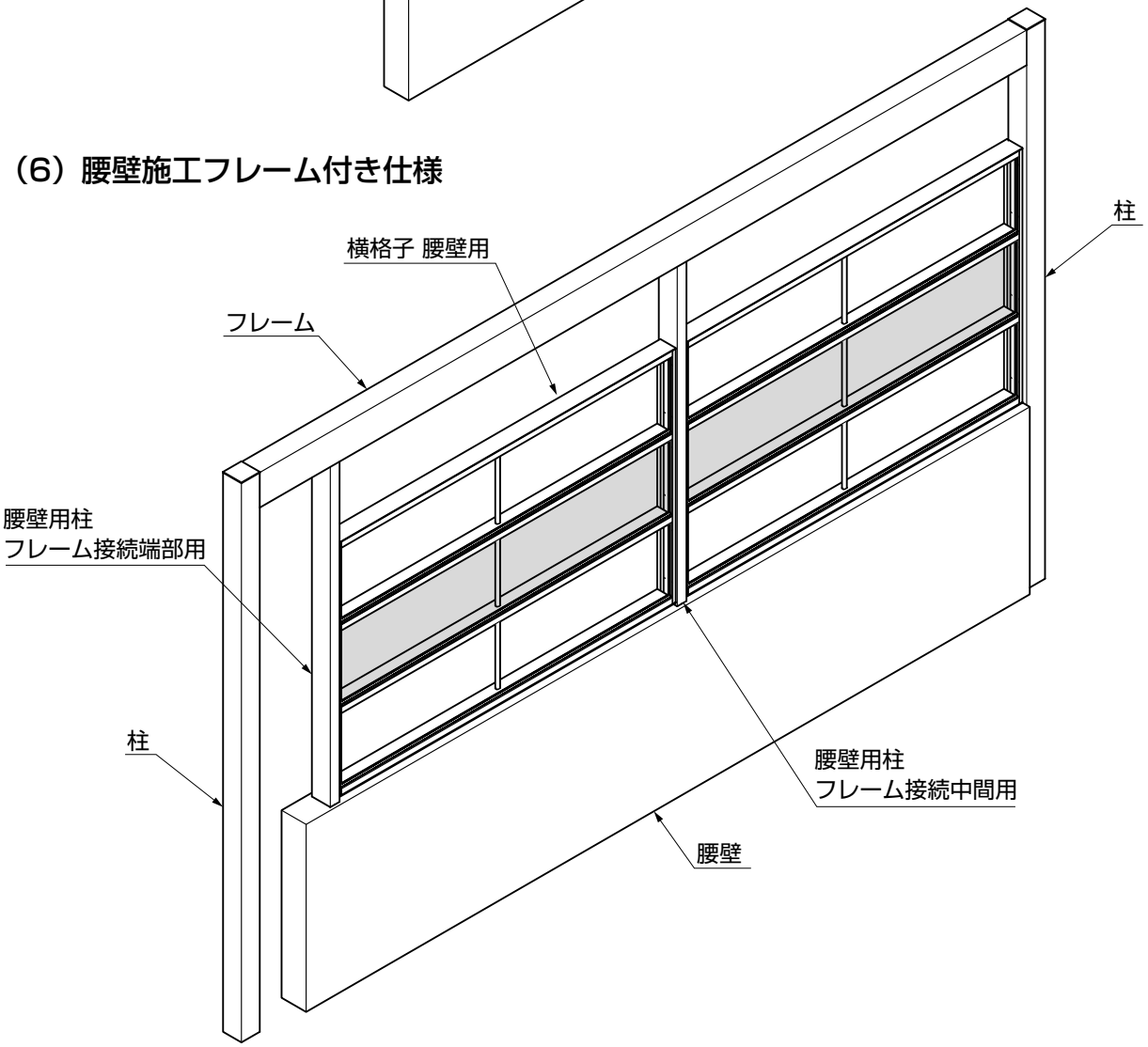
C367_200705A

3.（つづき）

（5）腰壁施工フレームレス仕様



（6）腰壁施工フレーム付き仕様



C367_200705A

4. 横格子用端部材の取付け　※腰壁施工の場合は不要です。

4-1 フレームレス仕様の場合の場合

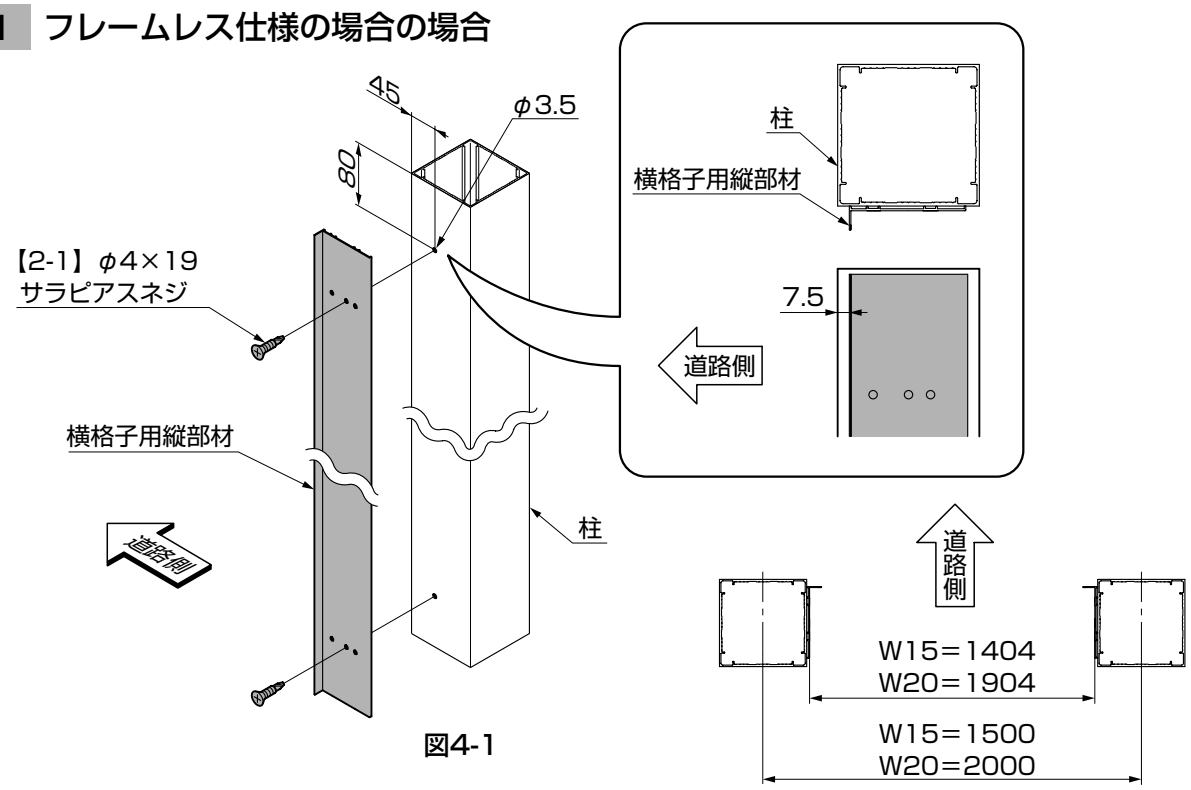


図4-1

①柱に横格子用縦部材仮止め用の孔をあけてください。
②柱に横格子用縦部材を【2-1】で取付けてください。

4-2 フレーム付き仕様の場合

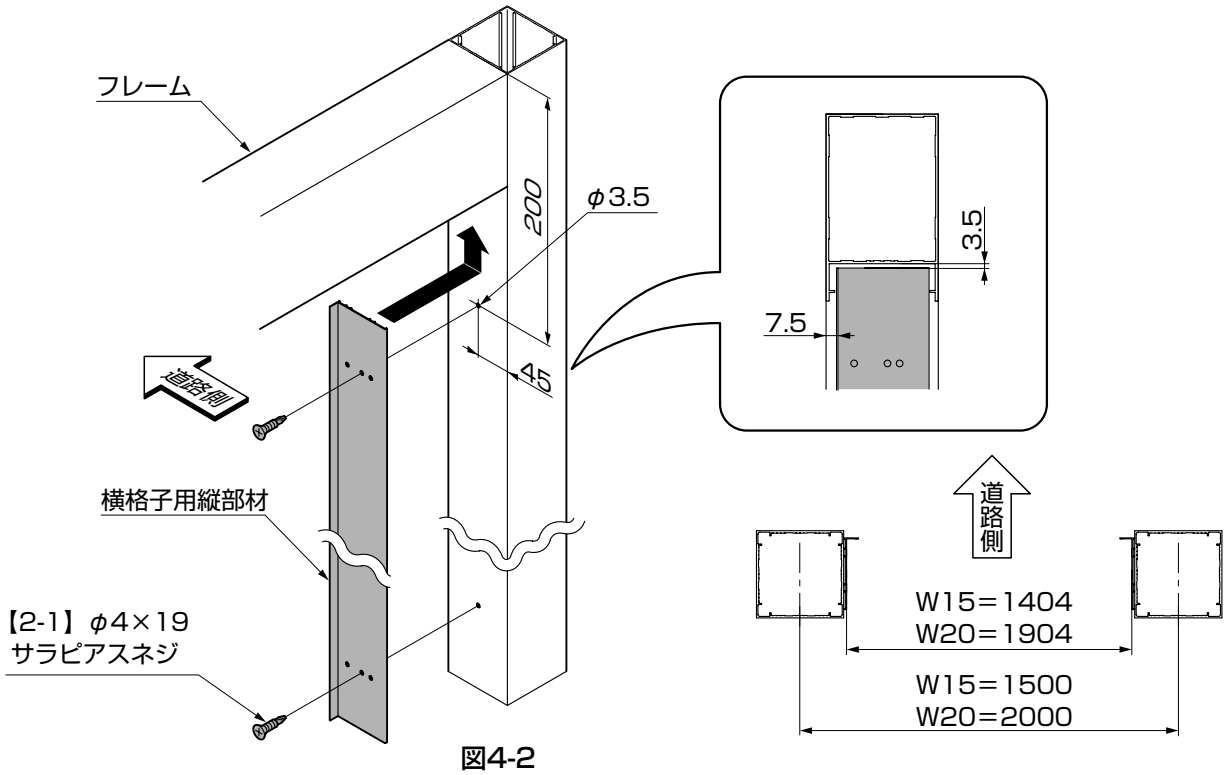


図4-2

①柱に横格子用縦部材仮止め用の孔をあけてください。
②柱に横格子用縦部材を【2-1】で取付けてください。

C367_200705A

5. 横格子パネルの取付け

5-1 フレームレスの場合

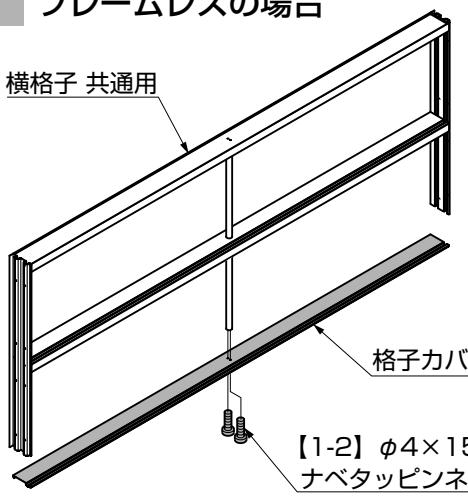


図5-1

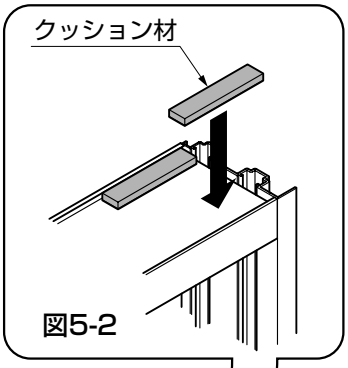


図5-2

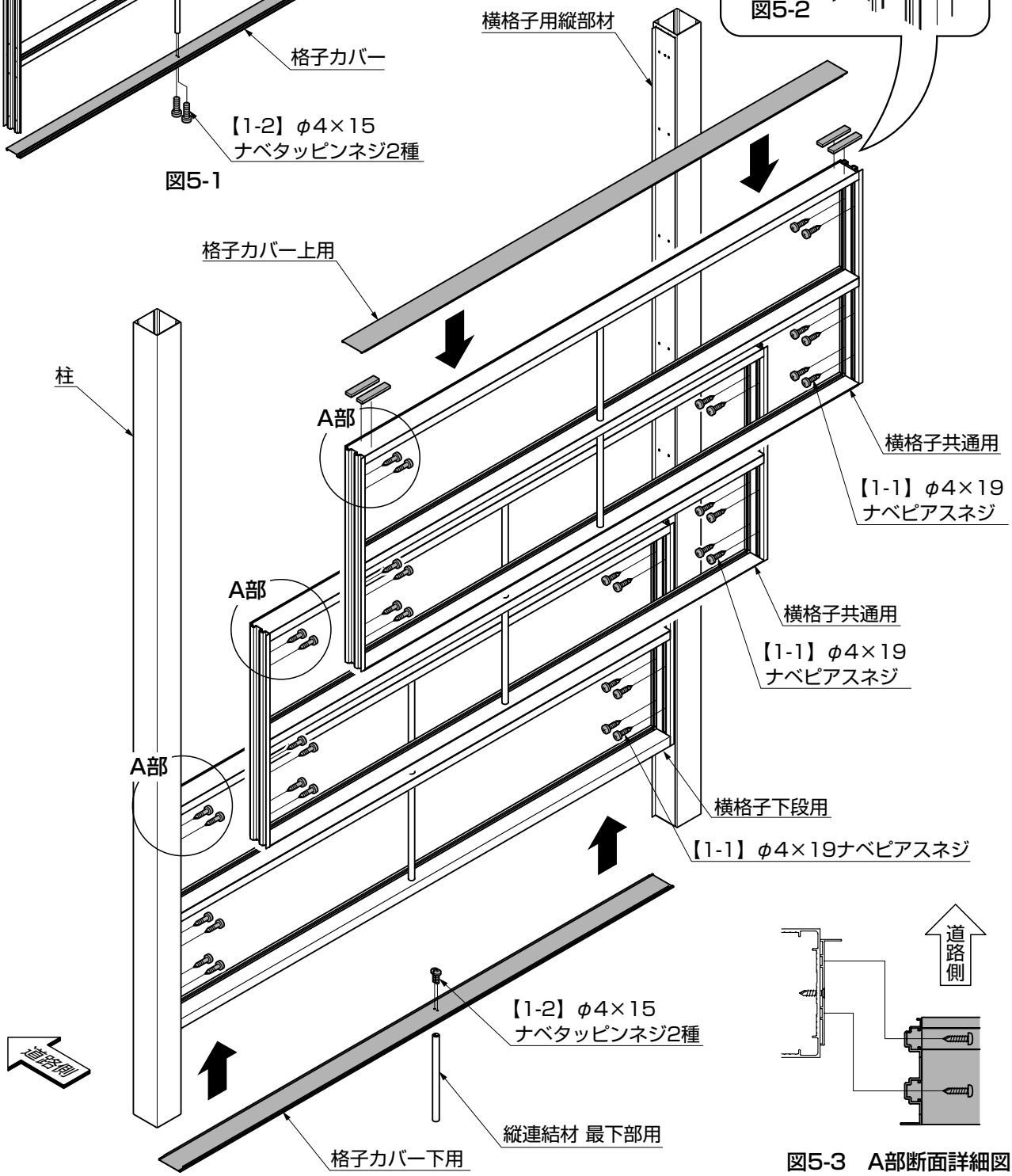
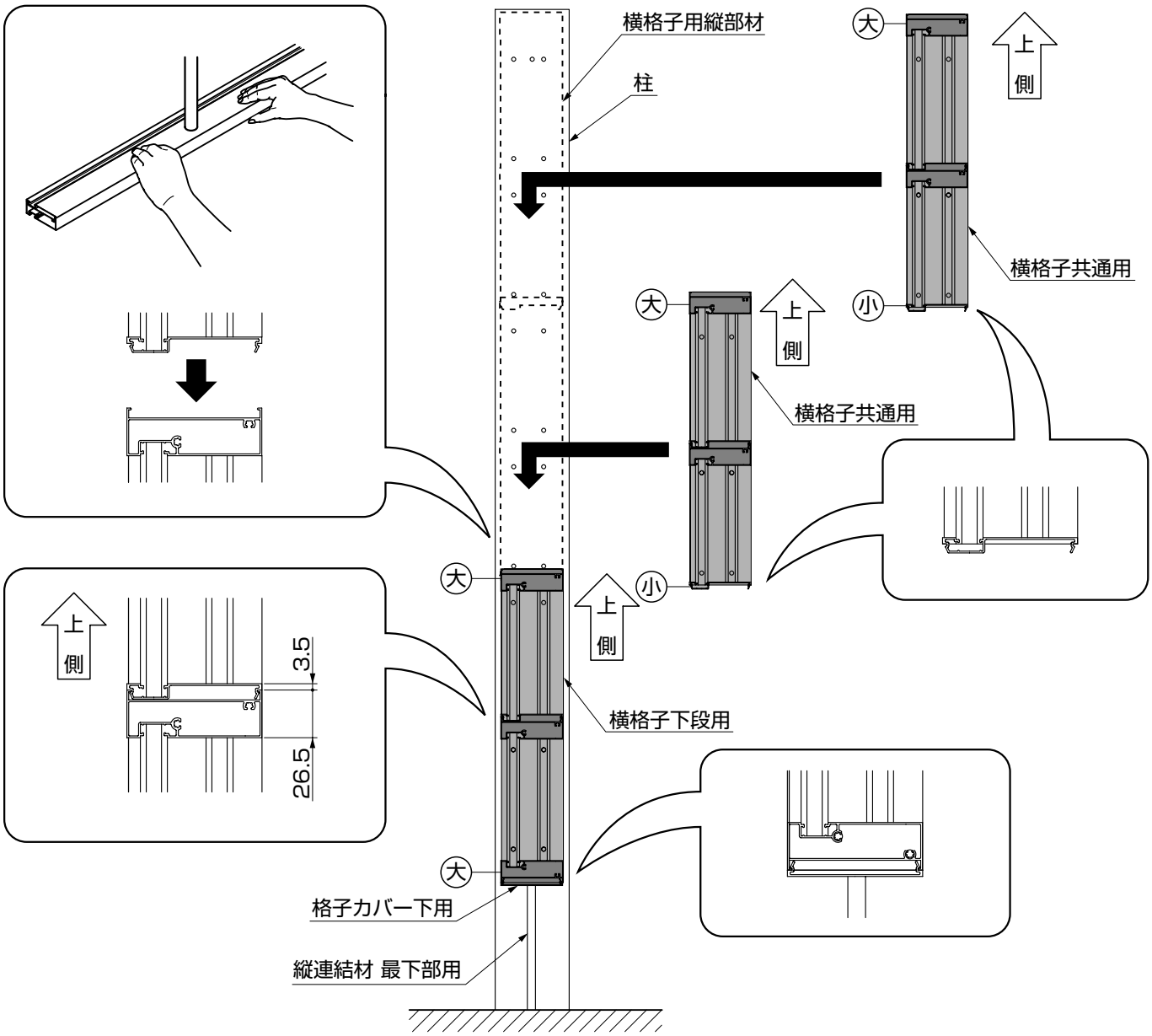


図5-3　A部断面詳細図

C367_200705A



①格子カバーを横格子共通用に【1-2】で取付けてください。(図5-1参照)
②横格子用縦部材に横格子下段用、横格子共通用の順に【1-1】で取付けてください。

ポイント

- ●横格子下段用には「下段用上」のシールが付いています。この面を上にして取付けてください。
- ●横格子部材の㊦㊧向きを確認しながら取付けてください。
- ●横格子には種類と上下があります。
- ●横格子は、下側から上側の順に取付けてください。
- ●格子取付けのかん合は確実に行なってください。
- ●縦連結材最下部用が埋込まれるため、格子カバー下用をはめ込む前にあらかじめ埋込み孔をあけてください。

③縦連結材最下部用を格子カバー下用に【1-2】で取付けてください。
④格子カバー下用を横格子下段用にはめ込んでください。
⑤最上段の横格子パネル両端外側にクッション材を貼付けてください。(図5-2参照)
⑥格子カバー上用を横格子の上にはめ込んでください。

5.（つづき）

5-2 フレーム付き仕様の場合

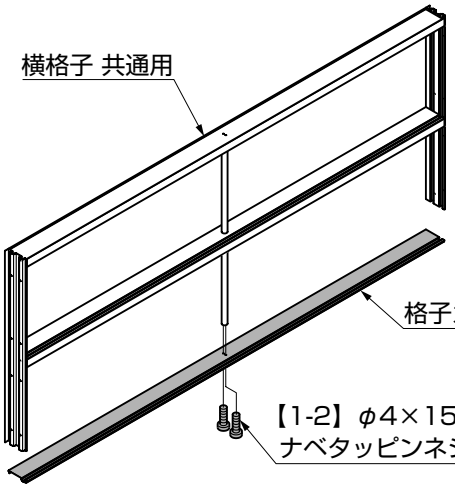


図5-4

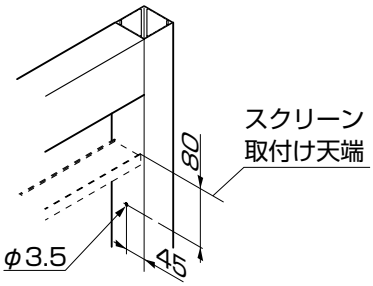
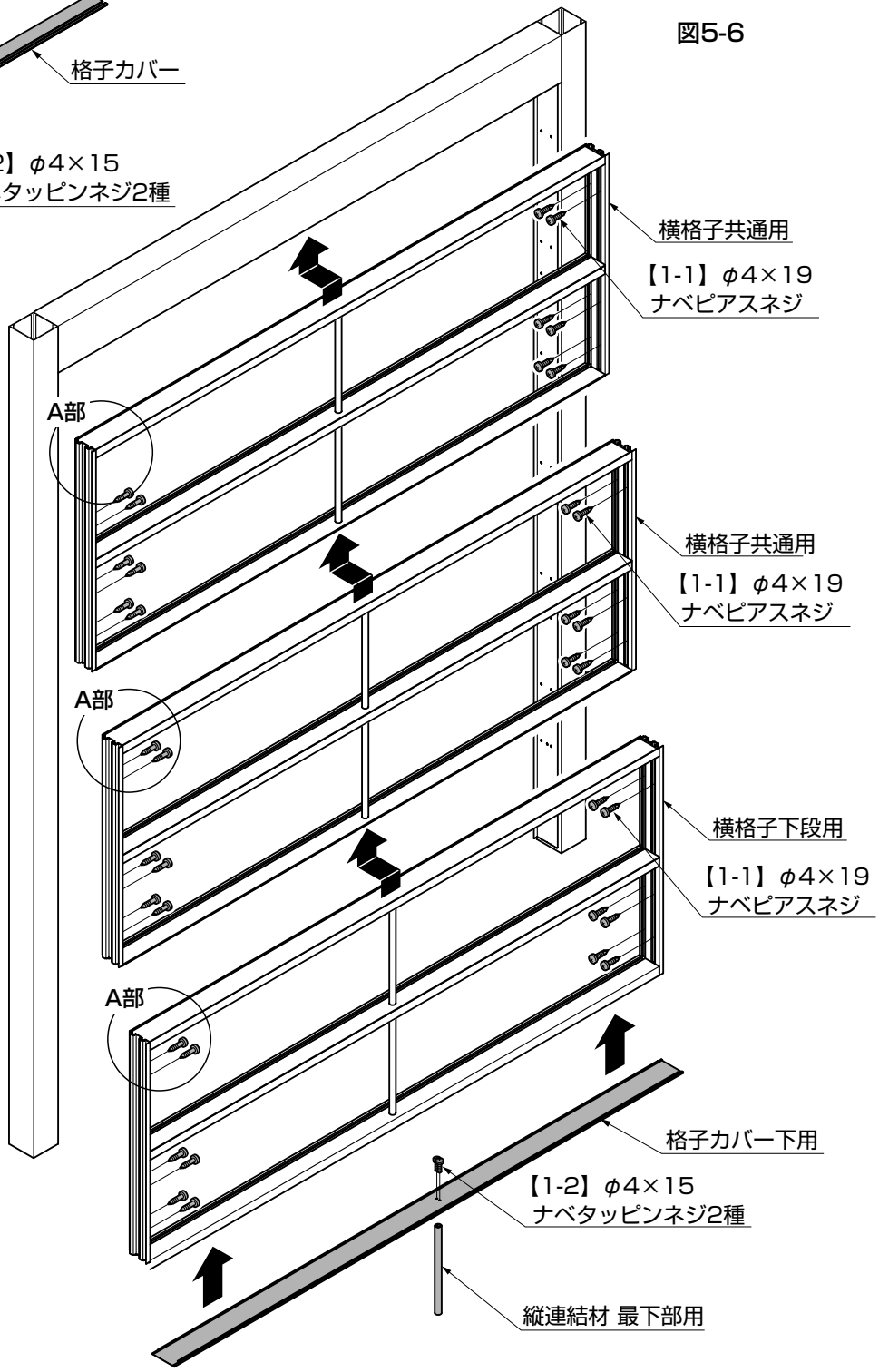


図5-6



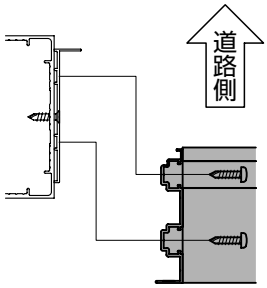
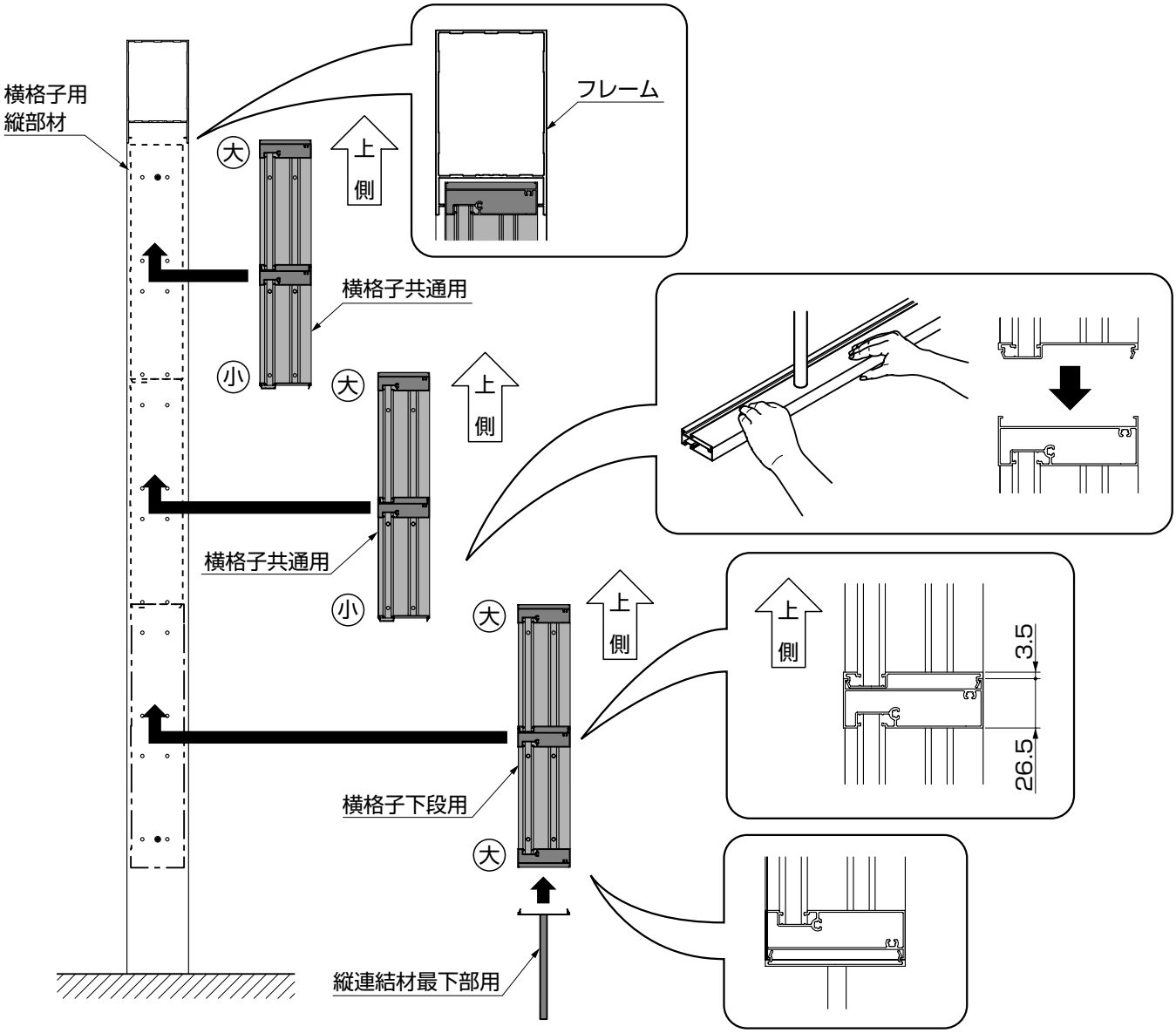


図5-5　断面詳細図

C367_200705A



①格子カバーを横格子共通用に【1-2】で取付けてください。
②横格子用縦部材に横格子共通用、横格子下段用の順に【1-1】で取付けてください。

ポイント

- ●横格子下段用には「下段用上」のシールが付いています。この面を上にして取付けてください。
- ●横格子部材の㊦㊧ の向きを確認しながら取付けてください。
- ●横格子には種類と上下があります。
- ●横格子は、上側から下側の順に取付けてください。
- ●格子取付けのかん合は確実に行なってください。
- ●縦連結材最下部用が埋込まれるため、格子カバー下用をはめ込む前にあらかじめ埋込み孔をあけてください。
- ●柱にスクリーンを任意の位置に取付ける場合は、図5-6を参照して柱にφ5の孔をあけてください。

③縦連結材最下部用を格子カバー下用に【1-2】で取付けてください。
④格子カバー下用を横格子下段用にはめ込んでください。

補 足

- ●フレームレス仕様の場合、フレームカバー、格子カバー上用、クッション材は使用しません。

5.（つづき）

5-3 腰壁フレームレス仕様の場合

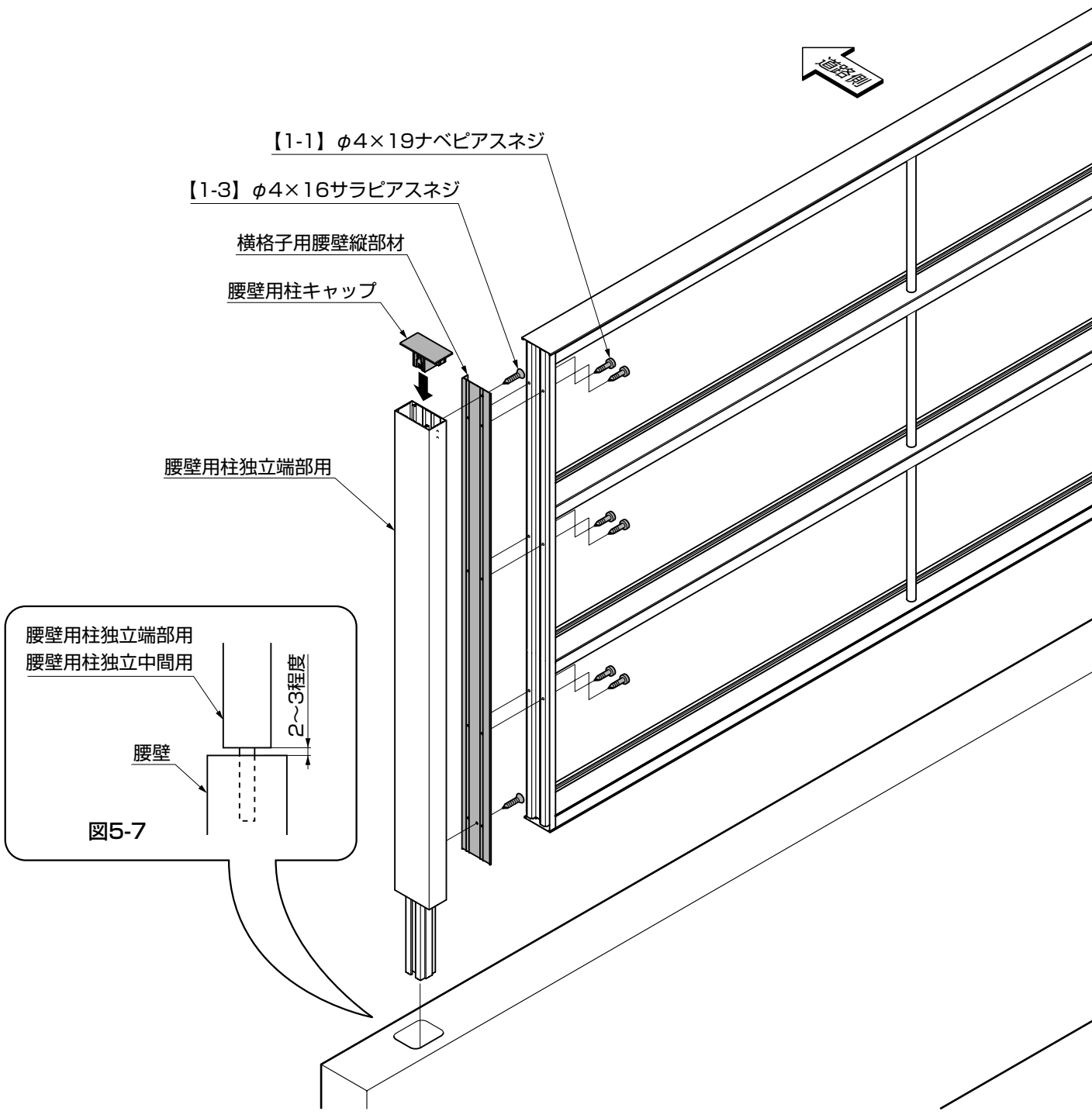
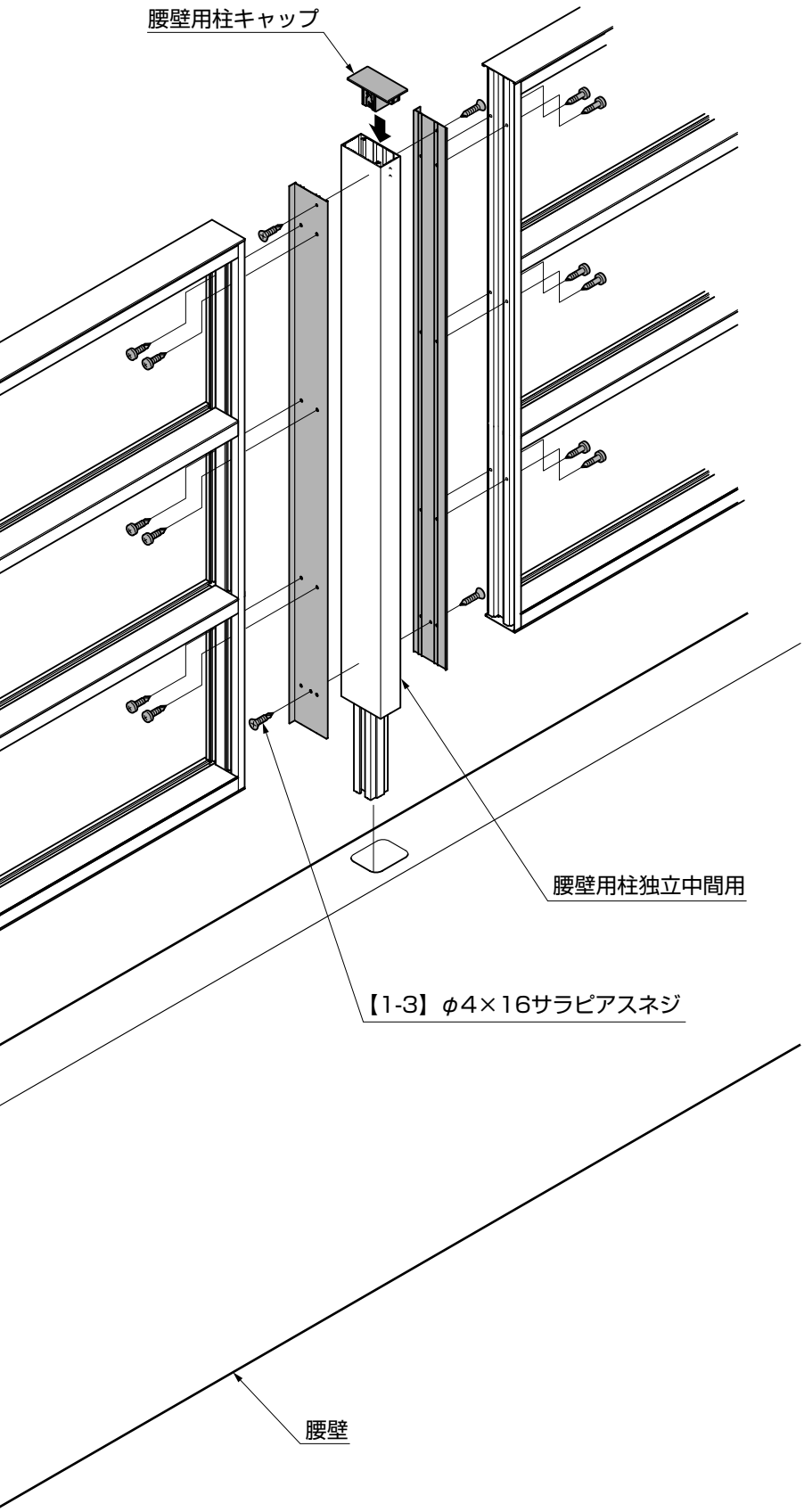


図5-7

C367_200705A



注 意

●腰壁用柱の施工の際にすき間をあけてください。すき間が水抜きになりますので塞がないでください。（図5-7参照）
柱の腐食が促進するだけでなく溜まった水が凍結して柱が破裂するおそれがあります。

①腰壁用柱独立端部用、中間用を腰壁に建込んでください。
②柱に横格子用腰壁縦部材を【1-3】で取付けてください。
③横格子を横格子用腰壁縦部材に【1-1】で取付けてください。
④腰壁用柱キャップを腰壁用柱にはめ込んでください。

ポイント

●柱の基礎への固定は横格子腰壁用を取付けた後、モルタルで完全に固定するようにしてください。
●腰壁用柱の内部にモルタルを詰めたりしないでください。

5.（つづき）

5-4 腰壁フレーム施工の場合 ※フレームカバーを取付ける前に行なう作業です。

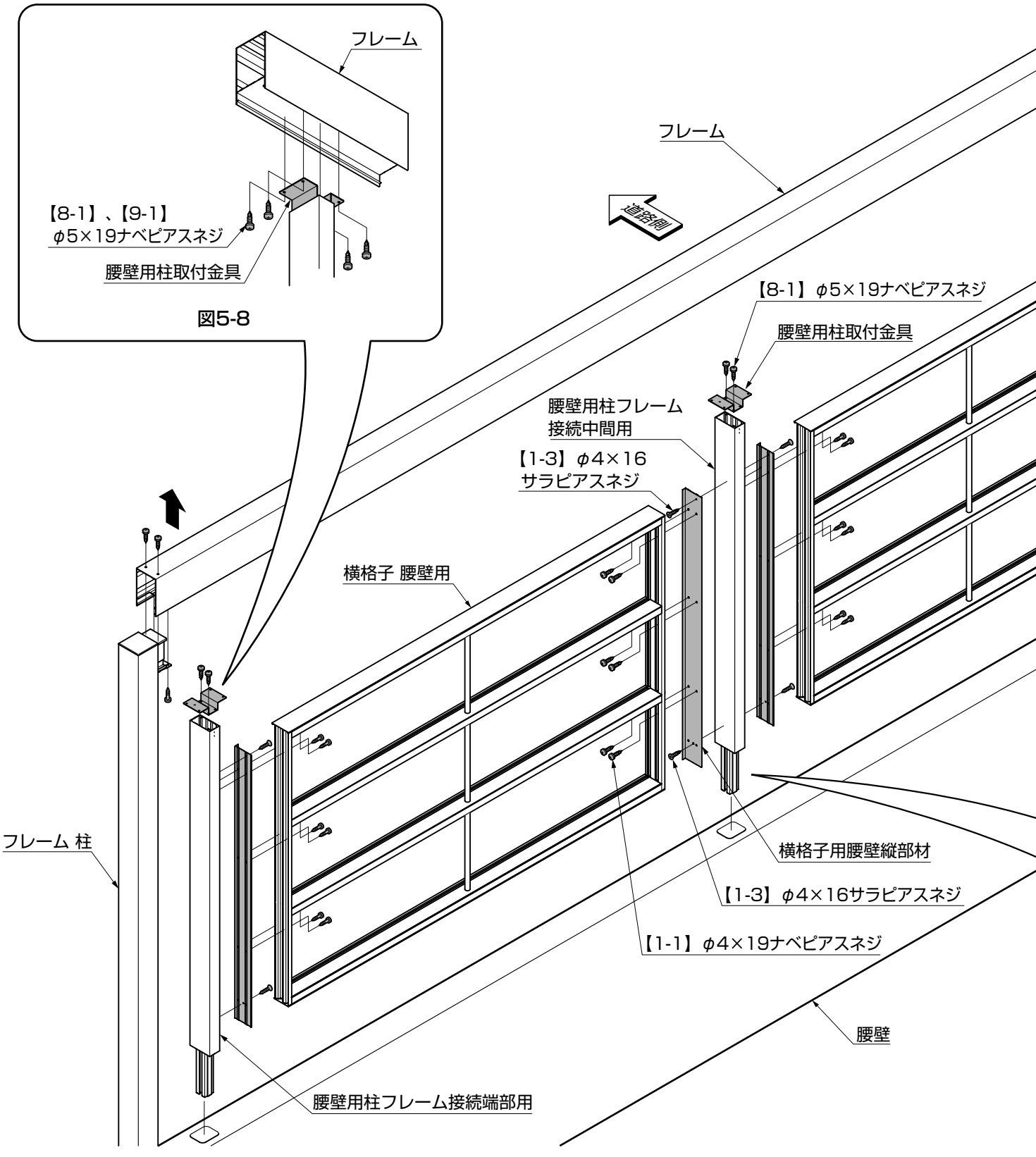


図5-8

C367_200705A

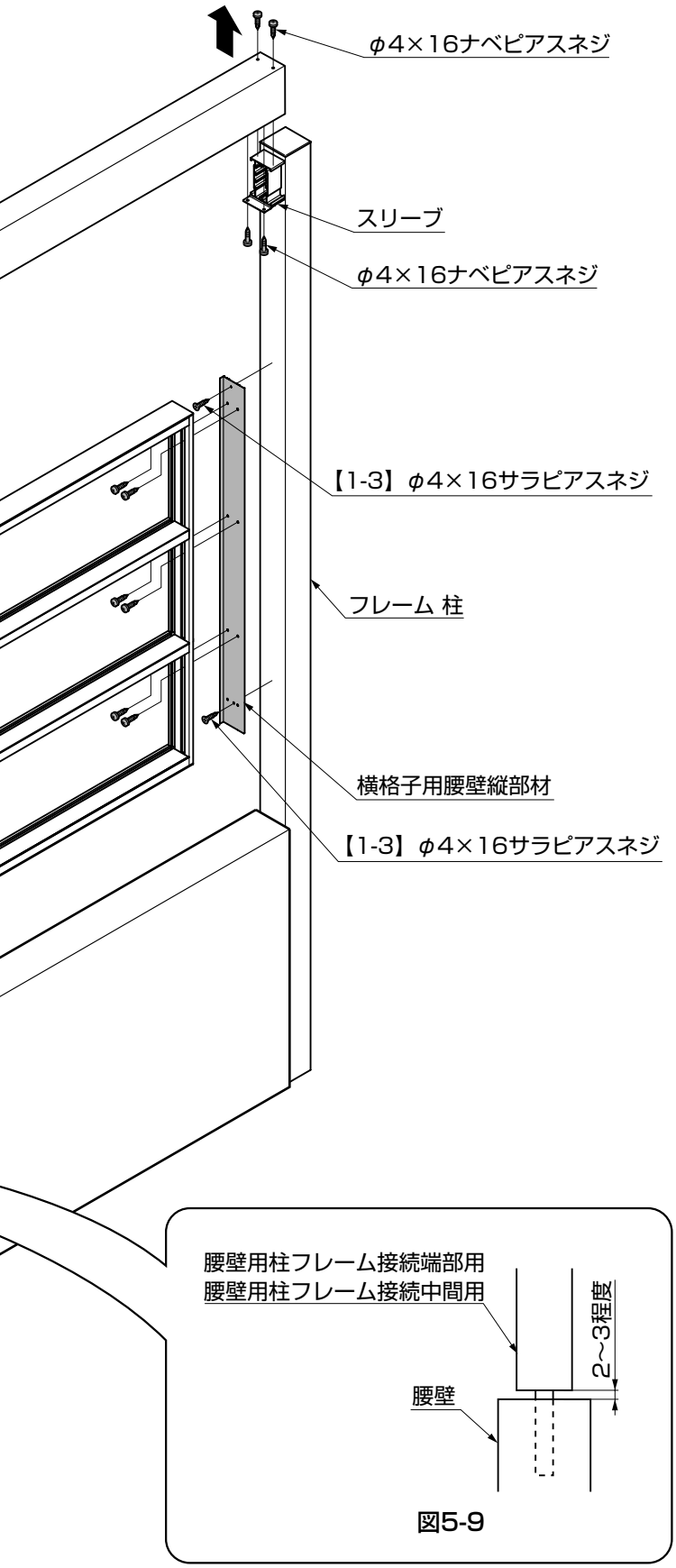


図5-9

注 意

●腰壁用柱の施工の際にすき間をあけてください。すき間が水抜きになりますので塞がないでください。（図5-9参照）
柱の腐食が促進するだけでなく溜まった水が凍結して柱が破裂するおそれがあります。

①腰壁用柱フレーム接続端部用、中間用を腰壁に建込んでください。
②腰壁用柱フレーム接続端部用、中間用をフレームに腰壁用柱取付金具と【8-1】、【9-1】で取付けてください。（図5-8参照）

補 足

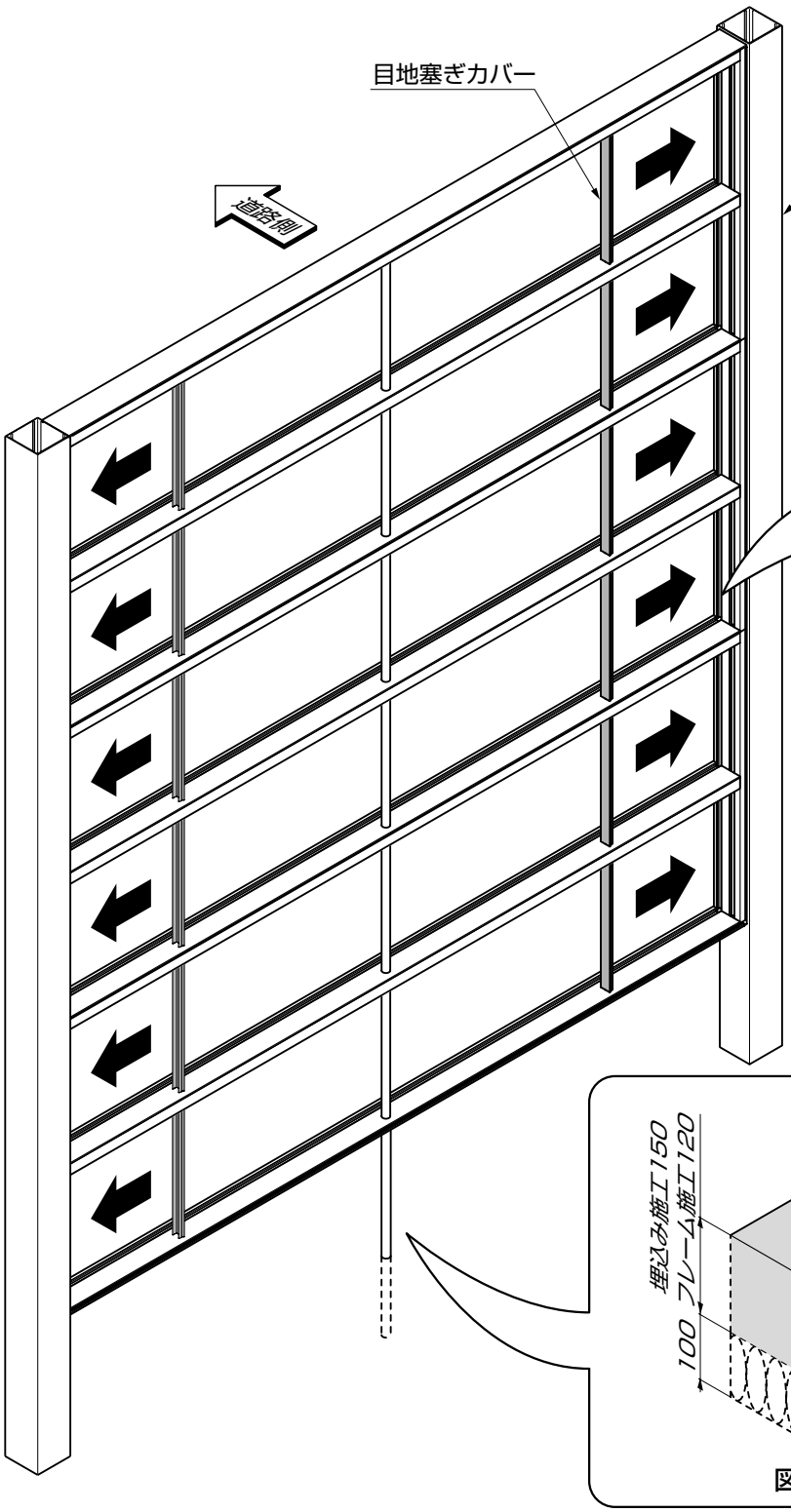
●フレームの取付けと同時に行なってください。フレームが仮止めの場合は一度フレームをはずして作業を行なってください。

④横格子用腰壁縦部材を腰壁用柱フレーム接続端部用に【2-1】で取付けてください。

ポイント

●腰壁用柱フレーム接続端部用を取付けた後にフレームカバーの取付けをしてください。
●柱の基礎への固定は横格子腰壁用を取付けた後、モルタルで完全に固定するようにしてください。
●腰壁用内部にモルタルを詰めたりしないでください。

6. 目地塞ぎ材の取付け



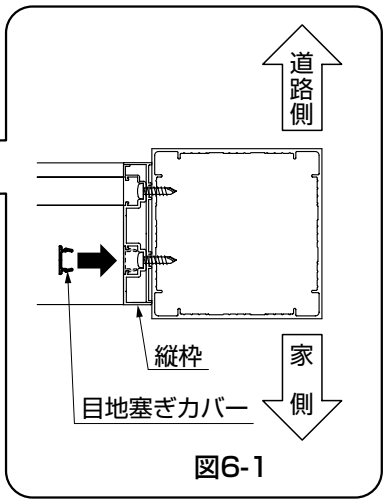


図6-1

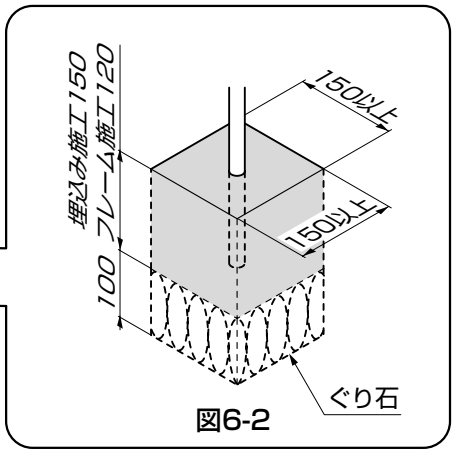


図6-2

①横格子の縦枠の家側溝に目地塞ぎカバーをはめ込んでください。(図6-1参照)

ポイント

●誤って道路側溝にはめ込まないように注意してください。パネルの取付けができなくなります。

②縦連結材最下部用へ基礎の施工を行なってください。

C367_200705A

7. パネルの取付け

7-1 パネルを取付ける場合

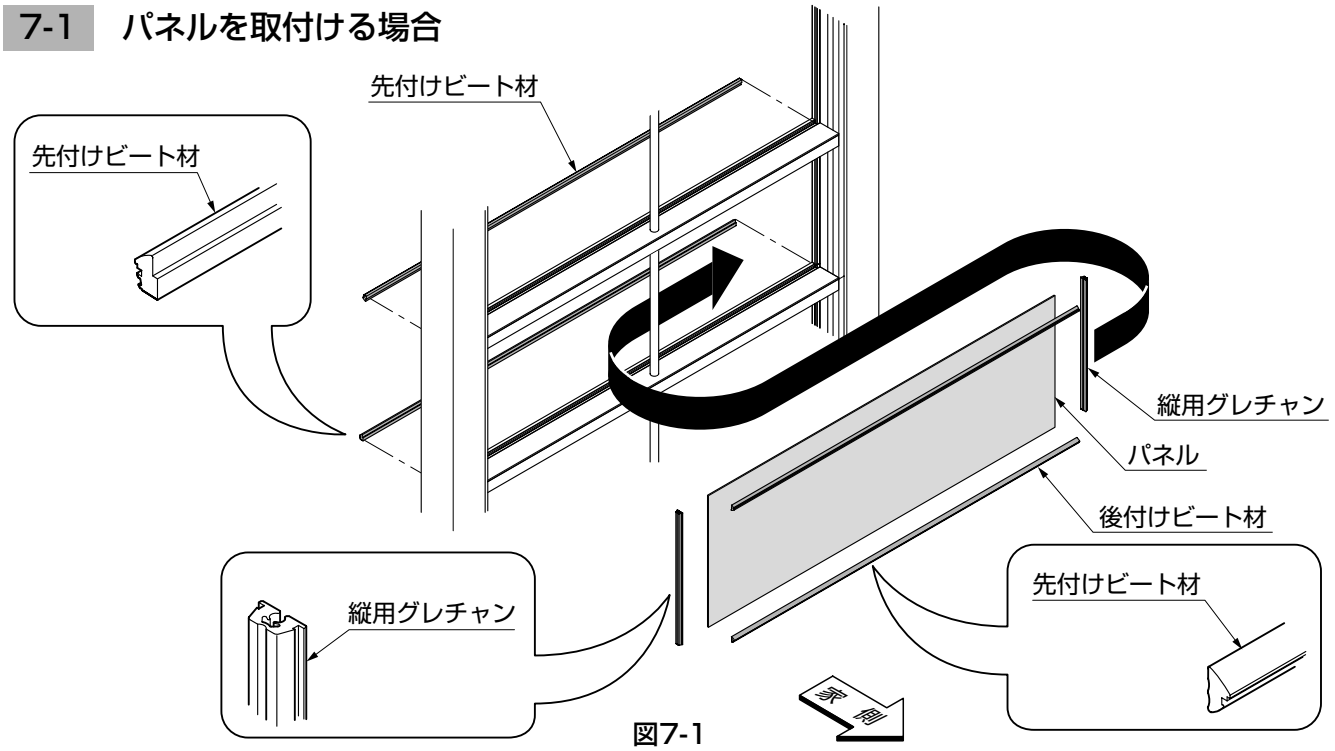


図7-1

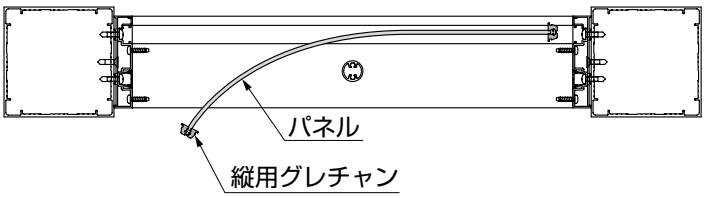


図7-2

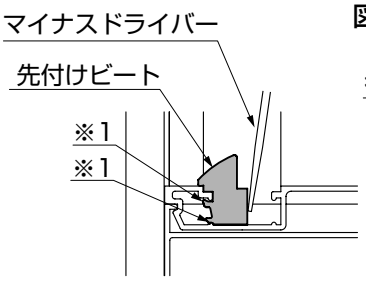


図7-3

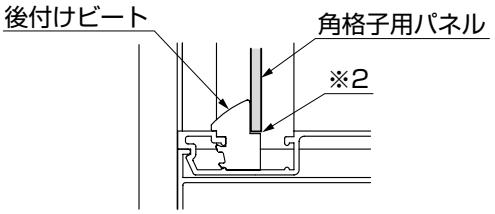


図7-4

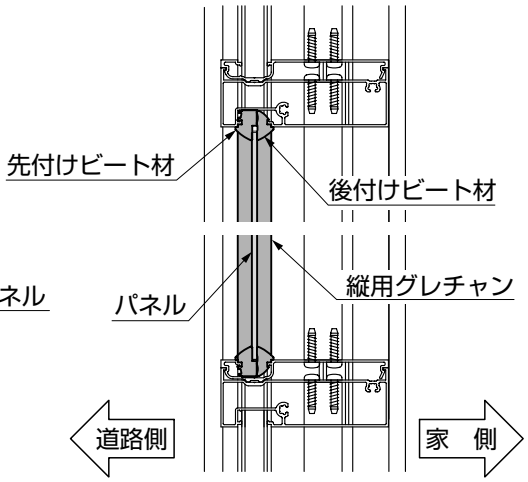


図7-5

ポイント

●パネルは現場で自由な位置にはめ込むことができます。

①横格子パネルに縦用グレチャンをはめ込んでください。
②縦用グレチャンを横格子にはめ込んでください。

ポイント

●先付けビートはマイナスドライバー等で図7-3の※1の部分が確実にはまり込むようにしてください。

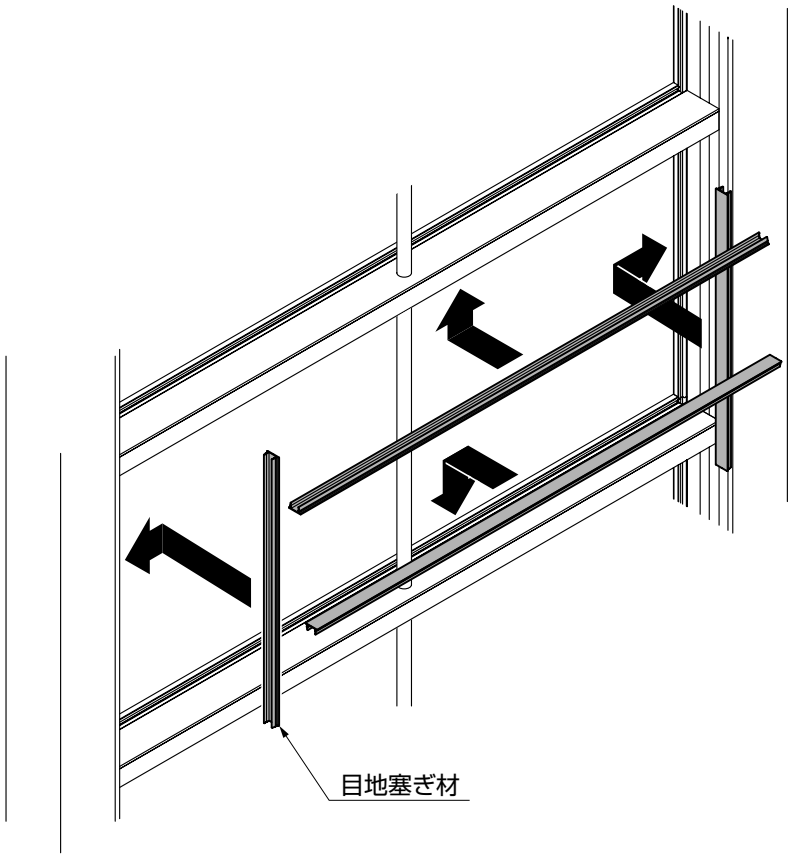
③道路側から先付けビートを横格子にはめ込んでください。
④横格子に後付けビートをはめ込んでください。

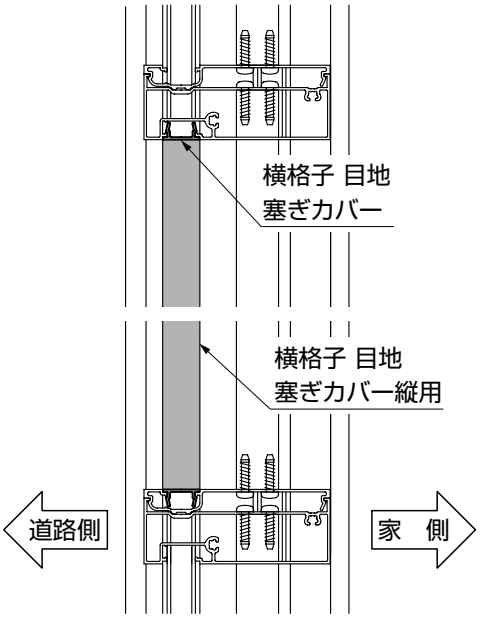
ポイント

●パネルを図7-4の※2の位置にしてください。後付けビートがスムーズに入るようになります。

7.（つづき）

7-2 パネルを取付けない場合





①横格子に目地塞ぎカバーをはめ込んでください。

取説コード
C367
JZZ614756
200705A_1039

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。